重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	安心して充実した医療サービスが受けられる	
施策名	高度な医療サービスを安心して受けられる体制を整える	No.4

年度	平成27年度
責任部長	病院事業部長
主担当課長	経営企画課長
関係課	健康づくり課、市民病院事務局管理課・業務課、木曽川市民病院事務局業務課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
医療サービスに安心感を持っている人の割合（%）	↗	80.9	78.6	84.0	86.8	87.1	88.2	84.9
		88.2	88.3	88.3	87.3			88.8
市立病院の医療過誤件数（件）	↘	―	―	―	.	―	―	―
		0	3	0	1			0
市立病院の医療事故防止に係る改善報告件数（件）	↗	―	―	―	―	―	―	―
		4,763	5,106	4,523	4,261			5,000
地域医療機関から市立病院への紹介率（%）	↗	―	―	―	―	―	―	―
		60.0	63.0	64.2	60.8			65.0
過去1年間で医療事故、医療ミスに遭った人の割合（%）	↘	2.7	2.9	2.9	2.6	2.3	2.7	2.1
		2.7	2.2	2.8	2.5			1.7

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

超高齢社会の到来により今後の受診者数の増加が見込まれる中、医療費の国民負担の増大、医師の偏在による、救急・産科・小児科などの医師不足、診療所の夜間・休日診療の縮小・廃止、保険診療制度を守るためのTPP交渉など医療情勢は目まぐるしく変わっている。公立病院においても、再編・経営形態の変更など抜本的な経営改善が行われ、地域医療の確保に向け検討が行われてきた。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	「過去1年間で医療事故、医療ミスに遭った人の割合」については減少しているが、他の指標においては前年度と比較し、横ばいまたは悪化となった。市民病院においては施設整備が整い、充実した医療サービスを提供できる体制であるが、地域の医療機関との連携をより密なものとし、患者が安心感も持って受診でき、安心した医療サービスを提供できるよう心掛ける必要がある。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
市立病院で安心して充実した医療サービスが受けられる	身近なところで安心して医療サービスが受けられる		
医師・看護師確保事業	病診・病病連携事業		
院内保育所事業	休日・夜間急病診療所事業		
医療従事者研修事業	口腔衛生センター運営事業		
救命救急センター事業			
地域周産期母子医療センター事業			
循環器センター運営事業			
結核・感染症病棟運営事業			
市民病院新病棟建設事業			
救急医療・高度医療・特殊診療部門医療機器整備事業			
健診事業			
病診・病病連携事業			

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	安心して充実した医療サービスを受けるためには、市立病院の充実と、地域医療との連携の強化、休日・夜間であっても対応できる体制の確保が重要であり、長期成果としては問題ない。しかしながら、まちづくり指標にある、医療事故、医療ミスに遭った人の割合は市立病院も含めた市内の医療機関の実績値であり、市立病院の努力と共に他の医療機関の資質の向上も不可欠である。今年度より市民病院新病棟建設事業が始まり、市民及び他の医療機関から更なる信頼を得る病院として努力していきたい。
次年度の改善計画	平成27年度からの市民病院新病棟建設設計業務に引き続き建設工事の予算措置を行い、新病棟建設に向け、地域医療の更なる充実を目指す。

＊＊

総合計画推進市民会議による現状評価（※総合計画推進市民会議が発表した「重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の評価書」から転記）

評価	B 停滞	指標2から医療事故に対する重大性の認識が薄いと見受けられる。「医療ミスはあってはならない」ことを頭に入れておいてほしい。